

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390700080		
法人名	社会福祉法人 みずき会		
事業所名	グループホーム ラスパみずき		
所在地	岡山県井原市下出部町872番地		
自己評価作成日	令和 5 年 7 月 9 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは開設から12年が経過し地域からも沢山の支援を頂いている施設です。其々のご利用者様が自分のペースで生活できる環境づくりを行っています。利用者様の要望が少しでも実現できるように、ご家族様と職員が協力し合って支援しています。物忘れや出来ない事が増えても、それは歳をとれば皆同じと、気の障りにならないよう接し、心穏やかに安心して生活を続けていただけることを一番に考えて生活のお手伝いをしています。現在職員は7名で、そのうち正職員が6名、5名が10年選手です。社会福祉法人みずき会が「働く人の環境が良くなることは、介護技術の向上とお世話される利用者様の生活の質の向上に繋がる。」との理念を持ち実践しています。質の高いサービスが提供できるよう、職員は各職員のレベルに合ったテーマで毎月eラーニングで学び、ヒューマンエラーを防ぎ服薬チェックの簡略化の目的で服薬支援システムを導入しています。またセキュリティの高いLINE WORKSを使用し、日々変化する利用者様の情報を職員間で共有し速やかに対応できるシステムを作っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390700080-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 7 月 20 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は11項目の施設理念に基づいて、日々の介護に従事していた。eラーニングの導入や月1回の勉強会を開催したことで、介護に対する意識と職員のスキルアップすることができている。また、タブレットを導入したことで、職員の記録の負担が軽減となり、LINE WORKSを活用したことから、職員間での情報共有がスムーズとなり、報告・連絡・相談の徹底化となった。職員だけでなく、利用者の居室やリビングは、清掃に磨きをかけ、清潔さを保つよう努めていた。そんなリビングで、利用者のゆったりと落ち着いてティータイムを楽しんでいる姿と職員の満足度が確認できたのも、管理者が、職員、家族、利用者が一番に考えていて、様々な意見に耳を傾けた成果であろう。入浴誘導の際にも、無理強いせず、言葉や担当者を変えて対応し、利用者の気持ちに寄り添うことで、安心感を与えている。福利厚生として、配達社食を導入したことで、職員の家庭での家事の軽減にも繋がった。ベテラン職員の聞き取りでは、「いつもよくしてくれてありがとうございます。」と家族の方からの感謝の言葉が心に沁み、介護職のやる気に繋がっている。コロナが終焉に向けて、導入したいことや外出したい場所など希望が盛り沢山あり、今後の展望が楽しみだと感じる、期待感を感じた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたサービスが提供できるように職員に説明を行い、どの程度理解しているのかを年2回確認している。	理念は事務所に掲示している。夏季と冬季の賞与の際に、ペーパーテストを行うことで確認している。今回は対面式で実施することができた。「意識レベルの一定化」を大切に、介護のプロとして望むよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば、地域行事への参加、地域ボランティアの慰問等があるが新型コロナの影響でまだ中止している。	業者が定期的に花の植え替えや手入れをしている。近隣の散歩をする際には、「花がきれいですね。」「元気にしてる。」など地域の方と挨拶を交わしたりして、親密な関係となっている。コロナ以前は、バーベキューや地域の餅つき大会、保育園との合同行事会に参加して、地域の一員となっていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域サロン「サクランボの会」からの依頼を受け職員が講師となって認知症の勉強会を行っていたが、未だ新型コロナの関係で見送られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナが第5類にウイルスが5類感染症に移行されたことに伴い5月から再開している。サービス状況を報告し、サービス向上に繋げられるよう委員から意見を聴いている。	管理者、介護保険課、家族、自治会長、地区役員、民生委員、有識者(家族会長)が参加している。活動状況報告書、研修内容、事業計画報告、サービス評価についての報告をしている。コロナ禍では、対面開催はできなかったが、直近ではリアル開催することができた。	対面での会議ができるようになり、さらに意見が出るように工夫してみたいかがでしようか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	井原市介護保険課の担当者とは密に連絡を取り分からないことは教えてもらっている。良好な関係が築けていると感じる。	窓口は管理者。担当者との関係も良好で、一方通行ではなく情報の共有ができています。直近のやり取りでは、事故報告を行った。電話や役場へ直接向いて、問い合わせることもあり、わからないことに対しても丁寧に教えてくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を3ヶ月に一度開催し、身体的拘束が行われていないか確認するとともに、委員会で検討した事項を職員に発信している。また年2回の勉強会では人権擁護の意味や拘束が心身に及ぼす悪影響を確認して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会と同時に虐待防止委員会を開催することもある。事故報告書を検証して意見を出し合い、出た意見はラスタ会議にて報告し、共有することができている。人権擁護に関しても勉強会を行っている。スピーチロックがあった際には、管理者がその場で注意することで気付け、すぐ是正できる体制となっている。	身体拘束に関して職員間で注意しあえる工夫をしてみたいかがでしようか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、定期的な委員会の開催、勉強会を行っている。職員には「虐待の根底にはグレーゾーンが存在する」ことを意識してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回、権利擁護に関する勉強会を行っている。日常生活支援事業や成年後見制度について学び、支援が必要となった時にスムーズにつなげることが出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時また改定があった際には利用者や家族に詳しく説明をし、納得されたかどうかの確認も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関りの中で利用者の要望を把握し検討したうえでサービスに反映している。家族の意見や要望は電話やメールでのやり取りの際に確認し、それらを表出できるように関わっている。	コロナ中の面会は、ガラス越しとZOOMで対応した。面会時に家族からの意見を聴取して、管理者に情報が集まる仕組みとなっている。月1回発行する【ラスバだより】にて、行事予定や施設内の様子や担当職員が利用者の家族に日々の様子やメッセージを添えたものも送っていて、手に取るようにわかるので好評の声を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日頃から職員の話や聴く姿勢を持っており、また年2回職員との面談を行い意見を聴いている。必要と判断したとき運営に反映させている。	年2回、賞与のタイミングで管理者が面談を実施している(ホーム長が行う場合もある)。親密な意見には、その都度話を聞く場を設けている。勤務形態の相談があったり、職員の希望休の取得にも反映できている。職員の負担軽減のため、タブレットの導入やLINE WORKSを活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日頃から職員の心身の状態、勤務状況の把握に努め、各自が意欲を持って働けるよう環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員其々のケアの実際と力量を見極め、其々に必要な研修計画を立ててスキルアップ、キャリアアップを後押ししている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は連絡協議会や研修会に管理者や職員を参加させ、同業者との交流やネットワークを作る機会を設けることでサービス向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まった時点で利用者の話を傾聴し困っている事や不安な事等、ニーズ把握に努めている。安心して新しい生活がスタートできるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった時点で家族の話を傾聴し困っている事や不安な事等、ニーズ把握に努めている。安心して新しい生活がスタートできるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に必要な支援の優先順位を整理して、利用者と家族に説明している。ニーズを充足するサービスが他にあれば、その説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が持つておられる力、その時々々の体調や気分を見極めながら出来ることをしていただいている。職員と利用者はお互い様の関係であるとの認識は周知されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は代弁者として利用者の想いを家族に繋ぎ、離れて暮らす家族が置いてきぼりにならないよう、家族と一緒に利用者支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員とお喋りをする中で、今迄の大切な思い出に辿り着くよう支援している。新型コロナ感染拡大防止のため面会や外出の制限のある中、本人が穏やかに生活できるよう支援している。	面会は制限を設けてはいるが、感染対策をした上で、各個人の居室で行うことができた。病院受診の際には、自宅付近を通ることで、馴染みの場所に触れる機会を作っている。リビングや廊下に置いてある椅子に腰掛けることで落ち着く方もいる。利用者は職員と会話することで、安心感が生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を見極めながら座席の配慮を行っている。また共同生活の中でお互いの関係が煮詰まらず、良い距離感を保って生活が出来るように職員は介入している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームの利用が終了された後も家族が施設を訪ねて来てくれたり、電話やメールが来たりなど繋がっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者其々に担当が付き、その職員を中心に情報収集後ニーズを発信し、利用者の希望を叶えたりサービスが利用者の意向に沿ったものになるよう支援している。	管理者は、利用者や職員との会話を大切にして傾聴の姿勢に努めている。帰宅願望がある方へは、ケアステーション内で管理者が話を聞くことで、安心感が生まれ、落ち着きを取り戻している。タブレットやLINE WORKS を活用することで情報共有ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に得た生活歴等の情報と生活しているうちに段々と分かっていく情報を職員で共有しサービスに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の体調変化や気付きは申し送るとともに記録に残し、利用者の現在の状態を正しく把握することで体調悪化を防ぐとともに、適したサービスが提供できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が行うアセスメントを中心に、より良く暮らすための課題を検討し、本人や家族の意向を確認したうえで現状に即した計画書が作成できるように努めている。	管理者がケアマネジャーを兼務しているので情報収集がしやすい。GH会議にて、担当職員より利用者の様子についての報告があり、ケアマネジャーがまとめて介護計画を作成している。ケアチェック表を活用することで、細かなことにも注意を払うことができ、介護計画の推進が図れている。モニタリングは月1回実施して、記録分析シートに記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録は記録システムを使用し、詳細に記録している。ひと月ごとに記録分析、担当職員による栄養スクリーニングを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の変化、家族からの要望等、新たなニーズに柔軟に対応できるように、その都度情報収集、職員間で検討を行いながらサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナが蔓延するまでは複数のボランティアに来てもらい生活を豊かにしていたが、まだ以前の状態には戻っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の意向により主治医はそれぞれが決められている。受診時は付き添って身体の状態を伝え適切な治療が受けられるように支援している。また家族が付き添われる時には身体状況を主治医に伝えている。	利用者の意向により、元のかかりつけ医を受診しているが、緊急の場合には、協力医に対応して頂ける。受診の際には、管理者が付き添っていることで、様態を把握することができ、職員や家族にもスムーズに伝えることができている。訪問歯科の診療が月1回あり、治療内容によってはその都度対応して頂ける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所に看護師の配置はないが、併設施設である小規模の看護師と連携を取りながら、必要な時には迅速かつ適切に医療に繋げられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より病院関係者との連絡を密にとり関係づくりに努めている。入院治療が必要になった場合には生活の場である当施設になるべく早く帰って来れるよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時には「重度化した場合における対応に係る同意書」を、また実際に終末期に入っている際には「看取りケア同意書」「重度化と終末期における健康管理書」にて意向を確認している。医療機関と連携し本人と家族が望む形で最後まで支援している。	ターミナルは実施している。昨年、家族の希望により1名の方を看取ることができた。デスカンファレンスも行い、家族の要望に合わせてようになった。「重度化と終末期における健康管理書」と「看取りケア同意書」により確認をしている。終末期のケアについては、本人や家族だけでなく、ドクターも交えて話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救命救急講習を修了している。利用者の急変や事故発生時のマニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナの影響で地域住民の参加は見送られているが年に2回災害時の避難訓練を行っている。色々な場面を想定し避難誘導や消火の方法を訓練している。	年2回の火災訓練を併設する小多機と合同で実施した。消火器会社立会いの下、消火器の使い方の指導を教わった。避難勧告が出た際に、利用者は2階に避難し、エアマットを敷いて一夜を無事に過ごすことができ経験的に安堵した。緊急連絡網は、ケアステーションに掲示している。備蓄は、3日分程度を2階に一括保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オンライン研修でご利用者の尊厳を守りプライバシーに配慮したケアができるよう学んでいる。また必要があればその都度職員のレベルアップのための指導を行っている。	呼称は苗字か下の名前に「さん」付けで呼んでいる。プライバシーの保護に関する研修をオンラインで実施することができた。プライバシーに反することがあった場合には、管理者がその場で注意するようにしている。利用者のことを敬いつつも、家で会話している様な表現をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者から「何かをしたい、食べたい、何処かに行きたい。」等の要望があった場合は、それが実現できるよう支援している。また自分の気持ちが表出できない方には担当職員が代弁をし発信している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝はゆっくり起きたい方、おやつ時間をずらしたい方、昼寝をしたい方等々、其々の生活のリズムに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問美容があり希望される方はそこで散髪をしてもらっている。手持ちの化粧品が無くなった時は今迄は一緒に買い物に行っていたが今は新型コロナの関係で購入を代行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホールと厨房は隣接しているので、食事時間になると食欲をそそる良い匂いが漂う。利用者の持つておられる力に応じて調理や準備、片付けに参加していただいている。	業者から食材が届き、担当職員が3食手作りをしている。近隣や家族の方からも野菜や果物の提供があり食卓に並ぶことがある。行事食として外で焼きそばを作ったり、ラーメンやお茶漬を提供したら喜んで頂けた。桜餅やゼリーを作ったり、おやつバイキングを楽しんだりしたこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者其々に合った形状で食事を提供し、その方の持つておられる力が活かせるような介助方法を考え支援している。毎月、栄養スクリーニングを行い低栄養等で必要な方には栄養補助食品の導入も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を認識し口腔衛生管理体制を整備している。食前の口腔体操・マッサージ、食後の口腔ケア等を毎回行っている。月に一度の歯科往診では希望者は診てもらい、その都度職員はケア方法の指示を受け実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者其々の排泄パターンを把握し、誘導や声掛け、トイレ介助をすることで不快感や本人の負担少なく安全に排泄が出来るよう支援を行っている。	トイレは4ヶ所あるが、ホールに面した3ヶ所を基本的には利用し、温かい下用タオルを常備している。介護度5の方も職員がトイレに誘導することで、排泄がスムーズになった。排泄失敗時には、さりげなく声掛けをすることで自尊心を傷つけないようにしている。夜間のみポータブルトイレを使用している方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を安易に考えず其々の排泄状態をPCにて管理している。まず飲食物を工夫し、それでも難しいようであれば医療に繋げ、医師の指示に従ってスムーズな排便が出来るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の身体状況や体調、介助者である職員の性別にも配慮して特殊浴槽、普通個浴、岩風呂を使い分けている。入浴時間や回数についても利用者の要望に沿えるよう支援している。	週2回の提供で、特殊浴槽、普通個浴、岩風呂もある。特殊浴槽は3名、普通浴は5～6名が利用している。入浴を拒否する方には、時間や職員を変え、言葉掛けに工夫を凝らしている。入浴中は、ゆっくりと寛げる時間となっていて、職員との会話が盛り上がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ交換や布団干しなど定期的に行い清潔な環境を提供している。またその時々体調や生活習慣に配慮して安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬に変更があれば、その都度情報を発信し職員皆で共有するとともに、その後の症状の変化等の確認に努めている。服薬支援システム「服やっくん」を利用し、服薬事故が起きないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者其々の意向を大切に、持っている力に応じた役割を担って生活されている。散歩、お喋りやレクリエーション等、様々な場を提供し生活が楽しいものであるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、美容室、自宅等、要望があれば出来る限り職員が付き添って出かけて希望が叶えるよう支援していたが、現在未だ新型コロナウイルスの影響で制限ある生活となっている。	コロナ禍では感染対策をした上で、自宅に一時帰宅した方もいた。月1回の訪問理容や近隣の散歩が楽しみな方もいる。コロナ終焉後には、笠岡方面にドライブへ出掛けたり、外食(ラーメン、寿司)や、ボランティアグループとの交流もできる方向で、利用者は楽しみにしていて待ち遠しい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解が得られた利用者で、要望があれば職員が付き添い買い物を行っていたが現在は新型コロナの影響で出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から許可を得た上で、利用者から電話や手紙の発送の要望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや居室の壁は漆喰であるので、匂いを吸収し落ち着ける空間になっている。また利用者の作品や写真を掲示して居心地よく生活しているよう工夫している。	リビングや廊下各所にイスが置いてあり、そこで落ち着いて寛ぐ利用者がある。玄関には今年の干支のウサギの人形が飾られていた。業者による花の手入れが行き届いており、玄関先が、季節の花で飾られ、落ち着く。利用者による壁飾りが、リビングにいくつか掲示されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う友達とお喋りを楽しんだり、自分の部屋で気兼ねなく過ごしたり、体操をしたりと、狭いながらも色々な空間があり、利用者は好きな所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	設備としてはベッドやクローゼット、床頭台や筆筒、椅子などを用意しているが、自宅から馴染みの物を持って来て居心地の良いお部屋にさせていただいている。家具の配置も身体状態や動線を確認して決めている。	備え付けは、ベッド、クローゼット、椅子、床頭台。家族からの写真や手紙を飾り、雑誌を読んで寛いでいる利用者もいる。センサーマットを敷くことで安全面にも配慮ができ危機管理しやすい。床で過ごすのが落ち着く方へは、カーペットを敷くことで、ゆったりと過ごすことができ、自宅雰囲気味わえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり車椅子での移動もスムーズである。入居されている利用者が持っている力を活かして生活できるように、ドアの開口部を変えたり表札をつけたりと、その時々で工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				